

back

被爆者ゆかりの梵鐘題材

小謡創作 平和へ願い

能楽の大島さん母娘(福山)

一九四五(昭和二十)

年の被爆直後、多くの被爆者が逃げ込んだ広島市東区牛田新町の不動院にある梵鐘を題材にした短歌を基に、福山市光南町、喜多流大島能楽堂事務局の大島泰子さん(六)が詩にアレンジした。長女で能楽師の衣恵さん(三三)が創作小謡に仕上げ、十一日に広島市でのコンサートで披露する。二人は「平和の尊さをあらためて考えるきっかけにしたい」と話している。



広島で11日コンサート

梵鐘は国重文の「銅製 高校時代の今は亡き恩師 込んだ掛け軸を見て感動 ば」と言つ。梵鐘」。菩薩、天女の姿が鐘からイメージを膨らし、短歌を詩にまとめた。コンサートは県民文化が刻まれ、戦国時代の僧 させて被爆の様子を五編 題名は「悲鐘」。「黒き センター(広島市中区大 侶安国寺恵瓊が朝鮮から の短歌に詠んだという。雨 降りしきる日にも 手町)であり、東京芸大 持ち帰ったとされる。被 泰子さんは十年ほど 鳴りしかも…原爆に 潰 卒の広島出身音楽家らが 爆直後、泰子さんの中・ 前、恩師宅で短歌を書き えし街 信相菩薩 舞い 出演する。(西崎哲也)

降る」と心象を表現した。

今回、衣恵さんにコンサート出演の音が掛かった際、泰子さんが詩を思い出し、被爆地にふさわしい題材と提案。衣恵さんが節をつけて披露することになった。泰子さん

原爆にまつわる梵鐘を題材に、小謡を創作する大島泰子さん(右)と衣恵さん

らは「詩は黒い雨の降る一変した街で、被爆者に生きる希望を与える内容。原爆を知らない世代へのメッセージになれ